

架け橋だより

乳幼児教育保育支援センター

架け橋だよりについて

幼稚園・保育園・認定こども園等の幼児教育・保育施設と小学校において、幼保小接続の取組の参考としていただけるよう、いわゆる架け橋期(年長と1年生の2年間)のこどもたちに関わる先生方の声をお届けする「架け橋だより」を発刊することといたしました。



～幼保小接続の視点～

- **1年生担任の先生**
今回は、安佐南区にある小学校を訪問し、1年生を担当している2名の先生にお話をお聞きしました。
- **入学式を迎える**
小学校には、幼稚園・保育園・認定こども園など、多様な幼児教育・保育施設から初めて出会う児童が入学してくるため、小学校教諭も入学式は気が張るようです。

そのような中、1年生を担当した経験のある先生と、初めて担任する先生では、1年生児童の育ちや、学級運営について、1年生を受け持つことが決まってからの、気持ちや見通しが異なるようです。

小学校では、入学式前に、親子で式場内を一緒に歩いたり、当日座る椅子に実際に座ったりして、新入生が安心して入学式当日を迎えられるよう、工夫しています。

児童・保護者・小学校の先生がドキドキしながらも安心して入学式当日を迎えられるようにしたいですね。

教えて！1年生の先生！

安佐南区にある小学校で2名の先生にお聞きしました。

～1学年のA先生とB先生にインタビュー～

Q 1年生を受け持つことが決まった時の気持ちを教えてください。

A 先生 私は、何回か1年生を担当した経験があるので、見通しがつくのですが、それでも改めて1年生担任をすることが決まると、何から手を付けるか迷いましたね。

B 先生 私は、1年生を担当するのが初めてなので、想像がつかないことが多く、正直言って、何が分からないのか分かりませんでした。

Q そのような気持ちで迎えた入学式はどんな様子でしたか？

A 先生・B 先生 入学式の前日、リハーサルを実施しました。そこに新1年生が数人参加しましたが、保護者の方がご一緒だったこともあってか、椅子の下に隠れる姿や、保護者から離れられない姿が見られました。そのような姿を見ると、「当日はどうなるのだろう？」とドキドキしました。当日は、涙が出てしまう児童もいましたが、みんなよく頑張って参加してくれました。



Q 実際に1年生児童と出会ってからはどうでしたか？

A 先生・B 先生 入学式の児童は緊張していました。私たちは新1年生が安心できる雰囲気となるよう、児童をずっとほめていました。（笑）

A 先生 初めての授業では、「学校は学ぶところだから分からなくて当たり前だよ。」「あきらめなくても大丈夫。」など、安心して学校で過ごしてもらえるよう、児童に伝えました。

B 先生 私は1年生の担任が初めてということもあり、学級開きの時の記憶がほぼありません。（笑）とにかく最初の3日間くらいは、いつもの3倍くらい高めのテンションで、優しい1年生の先生として過ごしました。
入学式の後、3週目くらいから徐々に、一斉指導をすることが増えましたが、最初は児童になるべく個別で関わるよう意識していました。基本的には、「1日楽しく元気で過ごせてよかったね♪」という雰囲気を大切にしています。

Q 入学後の児童の学習や生活の様子を教えてください。

A 先生 入学直後の児童は、とにかく「先生～っ！？」と、何でも私に聞きに来てくれます。そんな児童の姿に、「1年生ってこんな感じだったわ～」と久しぶりの1年生の雰囲気を楽しんでいます。（笑）

B 先生 そういう時、高学年なら「ちょっと待っててね。」と言って待ってもらうことがありますが、1年生には通用しない場合が多いですよね。

A 先生 授業では、クラスで一斉に学習課題を進める場面でも、先にどんどん課題を進めたい児童もいるので、「どうしようかなあ。」って悩むことがありますね。

B 先生 国語科のひらがなの学習を例にすると、入学前にひらがなを覚えている児童と、そうでない児童では、児童が獲得している力の個人差が大きくて、指導に悩むこともあります。個人差があるのは当然ですが、読み書きできる児童にとっては物足りず、そうでない児童にとっては辛い授業にならないよう、学習課題の提示方法などに気を付けるようにしています。

○ **児童に応じた指導**

小学校に入学すると、授業では教材を用いた教科指導が多くなります。環境を通じた遊びが中心の幼児教育・保育と指導の形態が異なります。

小学校入学直後の児童は、つい先日まで幼稚園・保育園等で遊び中心の生活をしていました。ですから、1年生の担任の先生は、就学前の育ちを踏まえ、児童が学校生活や学習のきまりなどを理解しやすいよう、児童の実態をよく捉えながら丁寧に指導することが求められます。

また、入学前後の時期のこどもは、同学年であっても、4月生まれと3月生まれでは、育ちの差が大きいことも多いです。1年生児童を指導する際には、一人一人の児童の育ちや獲得している力をよく理解し、一斉や個別による指導を適切に行うことが重要になります。

児童の多くは、2年生に進級する頃になると学校生活や学習のきまりを身に付けています。そのような児童を2年生以降で担任するのと、1年生の担任として1から学校生活や学習の決まりを指導するのとでは大きな違いがあります。



A 先生 生活科の学習では、校内で見つけたものを生活科シートに絵で描きます。しかし、1年生児童は、校内に無いものを描いていたり、何を描いたのかわからなかったりすることもあるため、「どうしようかなあ。」と一瞬悩むことがあります。そのため、丁寧に聞き取り、評価するようにしています。また、絵を描く際に鉛筆描きしてから色塗りするのと、直に色鉛筆で描く児童がいます。正解はないのですが「どちらがいいのだろう？」と疑問に思うことがありますね。

B 先生 困った時に、それを伝えられない児童もいるので、それに気付いて関われるよう気を付けています。こちらから聞き出したり、伝え方を教えたりしています。

A 先生・B 先生 給食指導もいろいろ考えます。今日で言えば、ししゃもが食べられない、牛乳が飲めない、お替わりしたけど残すといった児童がいました。そういった姿を見ると、日頃、幼稚園や保育園で食べている量について知りたいと思います。

B 先生 小学校と園では、給食の量がどのくらい違うのか知りたいですね。もし、園と学校で給食の量がかなり違うのならば、無理なく食べてもらえるよう調整するし、園と同じくらいならば、もう少し食べてもらえるような工夫をしたいですね。

Q 幼児教育・保育ってどのようなものだと思いますか？

A 先生 遊び、歯みがき、着替え、手洗いなど、身近自立する力の基礎を支えるものですかね。こどもがある程度自立した生活を送れるようにするというイメージですかね。

B 先生 私は、集団での生活や遊びを通して、他者との関わりを学ぶことを思い浮かべます。具体例で言えば、「ボール貸して。」「いいよ。」というような、こども同士でよくあるコミュニケーションも他者との関わりの基本だと思います。

令和7年度架け橋だより第2号のお知らせ

今回は、今回取材した小学校の夏期研修会の様子をお伝えする予定です、楽しみにお待ちください。

また、自園・自校の幼保小連携の取組を情報発信してもいいという園・校がありましたら、ぜひ乳幼児教育保育支援センターまでお知らせください。

Q 小学校1年生の担任として、1年生の担任には、どのようなものが求められると思いますか？

A 先生 1年生の担任は、2年生以上の担任とは少し質が異なるのかなと感じます。実際に担任してみないと分からないことが多いと思います。だから、本当に幼保小接続をしていくためには、入学前後のこどもの様子を多くの小学校教諭が理解する必要があると思います。これまでの幼保小連携の取組も大切ですが、小学校教諭が1年生の担任を経験した上で、連携する方が理解をより深められると思います。だから、より多くの小学校教諭が1年生の担任を経験することが重要だと思います。

B 先生 連携の取組で幼稚園や保育園で、遊びの様子を見ることはありますが、初めて1年生の担任になってからは、もっと細かい指導の部分も見てみたいと思うようになりました。例えば、朝の受け入れ、食事の時間、帰りの準備など、1日を通して保育を参観できたらいいと思います。

A 先生 1年生の担任を経験すれば、この時期のこどもたちの指導方法について学ぶ必要性を更に感じると思います。だから、1日を通して保育を見たいと思うようになります。しかし、1年生を担当したことのない先生は、そういった考えが生まれづらいのかもしれない。

B 先生 反対に、幼稚園・保育園の先生にも、小学校の1日を見てもらえば、それを保育に生かしてもらえるのではないかと思います。

○ **小学校教諭が架け橋期のこども理解を深める学校体制づくり**

小学校において、就学前に幼児教育・保育により育まれたこどもたちの資質・能力を小学校以降の教育に円滑に接続するためには、架け橋期のこどもを理解し受け入れる校内体制が重要になります。

今回、先生方のお話にあったように、「より多くの小学校教諭が1年生担任を経験すること」で、校内には架け橋期のこどもに対する深い理解を持った人材が増えていきます。

これにより、1年生担任だけではなく、どの先生であっても、より架け橋期のこどもに即した指導をすることが可能な校内体制の構築につなげることができると考えられます。